

# 仲間のよき伴走者たれ

全障研埼玉支部副支部長 細野浩一



## 小野隆二さん

おの りゅうじ / 1936～2001年。  
長野県生まれ。信州大学卒業後、埼玉県  
の障害児施設職員となる。1967年全障  
研の結成に参加。1973年、青い鳥学園  
園長就任。1978年、授産施設あかつき  
園園長就任。1977年共同作業所全国連  
絡会結成に尽力。社会福祉法人青い鳥福  
祉会理事長、全障研埼玉支部長を歴任。  
著書に『施設にくらしをきずく』（全障  
研）、『土を耕す』（群青社）など。

でいっしょに活動することも多くあ  
りましたが、亡くなる少し前に、「途  
絶えている施設問題研究会を再開し  
たいので、協力してほしい」とお声  
かけいただきました。願ってもない  
ことで、私と小野さんが呼びかけ人  
になって、埼玉支部成人期研究サー  
クルとして再開し、今日に至ってい  
ます。

「仲間のよき伴走者たれ」。障害の  
ある仲間の人生に寄り添い、どうし  
たら、一人ひとりの仲間たちが幸せ  
になれるか日々問いつづけてこられ  
た小野さんに学び、バトンを引き継  
いでいきたいと思います。

(ほその こういち)

小野隆二さんが2001年6月、64歳  
で亡くなられて17年余となりま  
す。1936年に生まれ、大学まで長野  
で過ごしたのち、1963年埼玉県東松  
山市にある障害児施設の職員となり  
ました。1967年全国障害者問題研究  
会の結成に参加し、地域で親の会と  
障害のある幼児や不就学児を対象と  
した「青い鳥教室」をはじめていき  
ます。そして、毎日通える「施設」  
にするために、青い鳥学園の建設運  
動に専従職員としてかかわってい  
きました。1970年から3年間の無認可  
をへて、1973年に通園施設「青い鳥  
学園」が正式認可されました。さら  
にすでに成人期を迎えようとしてい  
る仲間のために1975年にあかつき園  
準備室を立ち上げ、1978年にあかつ  
き園を開設し、園長に就任しまし  
た。その後も、1982年に県下で初の  
共同ホームの開設などに精力的にと  
りくむとともに、1977年共同作業所  
全国連絡会の結成にもかかわり、常  
に活動の先頭に立ってこられました。

1984年に全障研から出版された小  
野隆二さんの著書『施設にくらしを  
きずく』は、あかつき園での実践記  
録として、『みんなのねがい』に  
1982年5月から1年半連載されたも  
のです。「難しい理屈はなく、仲間

の姿がいきいきと描かれ、彼らの姿  
に小野氏の深い思想が貫かれている」と、教育学者の坂元忠芳氏は推  
薦する実践の本として、須長茂夫  
『どぶ川学級』（1969旬報社）、若林  
繁太『教育は死なず』（1978旬報社）  
と並んで、『施設にくらしをきずく』  
をあげています。峰島厚氏は、「そ  
こを拠点に自然と共存する生活をつ  
くろうとする考え方、そしてあくま  
でもふだんの生活のなかでの、自然  
にでてくる仲間の声や行動を大切に  
し、展開される実践」と評してい  
ます。

\*

私が青い鳥のことを知ったのは、  
高校生のときでした。NHK朝のニ  
ュースで「はばたけ青い鳥学園」と  
して無認可ながら開所したことが紹  
介され、私の生まれ育った町にこん  
な動きがあったのかと驚くととも  
に、障害児教育を志すきっかけとな  
りました。大学に入ってから運動  
会などの行事や、地域での未就学児  
の実態調査活動に参加させてもら  
いました。当時30代半ばの小野さんは  
恰幅のいい体でいつもにこやかに子  
どもたちの様子を見つめ、私にも気  
さくに声をかけてくれました。以  
来、地域でのとりくみや全障研など